

エコイノベーションへの期待

Promotion of eco-Inovation



内閣府大臣官房審議官（科学技術政策担当）

梶田 直揮

Kajita Naoki

平成19年7月に「イノベーション創出の鍵とエコイノベーションの推進」という報告書を経済産業省の産業構造審議会産業技術分科会がまとめている。筆者は、この報告書のとりまとめに参加していないので、「エコイノベーション」という造語がどのような経緯でできたのか承知していないが、個人的には最近はやりのグリーンイノベーションよりは気に入っている。グリーンでもエコでもどっちでもいいではないかといえばそうかもしれないが、グリーンやクリーンではエネルギー色が強すぎるのではないか。持続発展可能な新しい人間・産業・社会生態系づくりという含意を表すにはエコのほうがいいように思う。

長い目でみれば、地球温暖化の原因はさておき、「大量生産、大量消費、大量廃棄」に依存する経済は改めなければいけない。同時に、途上国の人々を含め世界中の人々が成長する経済活動からの便益を等しく受けられるようにすべきである。そのためには、産業は脱希少資源型&資源循環・多段階利用型ビジネスモデルを指向せざるを得ないし、生活はサービサイジング化（ものを個人で保有せず、機能を借りて使うようになること）するだろうと思われる。そうした変化を可能とするには、新しい科学技術の知見が不可欠であり、また、それを実現するための技術力が必要である。よく聞く批判に、「日本は個々の部品や技術はりっぱだが、製品化、システム化できず、ビジネスで負けた」という指摘がある。残念ながら、今のところあたっているが、「大量生産、大量消費、大量廃棄」型の製品開発で負けているなら、“それも、またよし”ではないか。1990年代以降長らく日本経済は停滞しているが、ナノテク・材料科学技術分野をはじめ多くの分野で日本の科学技術力は依然高水準を維持している。生活スタイルや産業構造が抜本的に変わる可能性があるなか、今までにない新しい技術・部材・部品を使って、新しい機器・サービスを世界に提供していくための移行期間だと思って、辛抱強く取り組めばいい。日本には、世界のエ

コイノベーションを先導する潜在力があると思う。

現在、筆者が関係する総合科学技術会議の主導のもとに、「最先端研究開発支援プログラム」が進行中である。これは、平成 21 年度から 25 年度までの 5 年間で 1000 億円の基金を使って、全国から選ばれた 30 人の研究者にそれぞれ 15 億円から 60 億円のプロジェクト管理をまかせ、予算単年度主義等の制約に縛られずに、世界トップを目指す研究に集中してもらおうという新しい試みである。当初、平成 21 年 5 月の補正予算では 2700 億円の基金化が認められていたが、政権交代後に 1000 億円に変更され、平成 22 年 3 月から研究が開始された。その内訳をみると、宇宙の起源探索から iPS 細胞の再生医療利用やロボットスーツ開発まで非常に幅広い分野に及んでいる。その研究内容の素晴らしさにも感嘆するが、それに加えて、中心となる研究者のみなさんが示される「ヴィジョン（夢）、ミッション（責任感）、パッション（情熱）」に感動を覚える。個々には紹介できないが、最先端プログラムのホームページ¹をご覧ください。エコイノベーションにとどまらず、日本がさまざまなイノベーションを先導する可能性があることがご理解いただけるものと思う。加えて、幸いなことに筆者は 500 人を超える応募者の中からこの 30 人の研究者の方々を選考される過程にも参加することができた。選ばれなかった提案の多くにも筆者は胸を躍らせた。このような夢あふれる人材と研究の厚みこそ、まさに日本の成長の潜在力であると思う。

政府では、平成 8 年に制定された科学技術基本法に基づき、5 年ごとに科学技術基本計画を策定しており、すでに第 1 期から第 3 期の基本計画を終了した。この 4 月からは第 4 期基本計画の適用開始を予定していたが、3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う東日本大震災への対応を考慮して、同計画案の修正を検討中である。第 4 期基本計画の対象期間は平成 23 年度から 28 年度の 5 年間であり、また、政府計画に夢や情熱といったものを取り入れるのは難しいが、多少なりともエコイノベーションの発想も取り入れて、日本の長期的発展につながるような計画づくりを行っていきたいと考えている。

最後になりましたが、東北地方太平洋沖地震によりお亡くなりになったの方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方々、そして福島第一、第二原子力発電所の事故に伴って避難や屋内退避を余儀なくされている方々に心よりお見舞い申し上げます（4 月 14 日記）。

¹ <http://first-pg.jp/about-us/about-30.html>